

形式仕様記述の機能仕様書への適用

株式会社インテック

大屋由香里

ooya_yukari@intec.co.jp

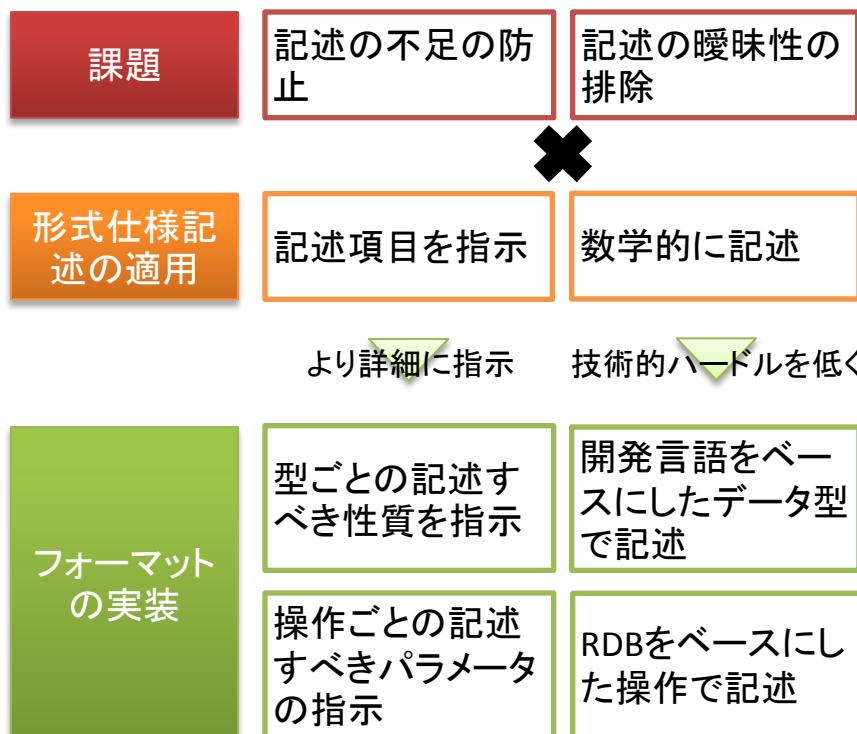
開発における問題点

開発時に設計変更が生じることによる工数の増大や、お客様満足度が低いという事例が起きている。要件と設計の間に齟齬があることが原因であり、その一端は機能仕様書の不備にある。

手法・ツールの適用による解決

機能仕様書の不備として、記述の漏れと曖昧性がある。形式仕様記述の適用による解決を目指す。しかし、形式仕様記述をそのまま導入することは、教育コストなどの面から困難である。そこで、形式仕様記述の記法に習った機能仕様書フォーマットを提供することにより、同等の効果を得ることを目指す。

課題とアプローチ



機能仕様書フォーマット

▼データ仕様記述用フォーマット

名称	プリミティブな型から選択	
型		
満たすべき性質	性質	満たすべき状態
不変条件	型ごとに必須の性質を提示	

▼操作仕様記述用フォーマット

名称			事前条件	制限事項	事後条件
データ	データ名	個数	性質	満たすべき状態	
シグネチャ	プリミティブな操作から選択		操作ごとに必須のパラメータを提示		
入力					
出力					
本体	No	内容	詳細設定		
本体			パラメータ	値	

評価と今後の課題

	書き手の評価	読み手の評価	今後の課題
記述の不足の防止	<ul style="list-style-type: none"> ○機械的に記述できる部分は便利である。 ✖提示されている項目が記述したい事柄にしっかりこない場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○何が定義されているかを把握しやすい。 ✖情報が分散して読みにくい。 	<p>単純な書き忘れや性質の定義忘れには効果があることを確認できた。</p> <p>しかし、書きやすさ読みやすさに問題があり、今後改善が必要である。</p>
記述の曖昧性の排除	<ul style="list-style-type: none"> ○記述の方針が定まり、一貫した記述ができる。 ✖提示されている操作で業務を記述できない場合がある。 ✖作業負荷が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○操作の流れが明確になった。 ✖文による記述と単語のみの記述が入り乱れて読みにくい。 	<p>記述に一貫性が生まれ、記述してある内容が明確になる効果があることを確認できた。</p> <p>しかし、記述対象の想定が不十分なため、記述の指示に問題があり、今後改善が必要である。</p>